

平成 28 年度 第 2 回 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 28 年 8 月 19 日(金)〈開会：11 時 15 分、閉会：11 時 55 分〉

2 場 所 県庁 3 階第 1 会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教育長 竹井 千庫
教育委員 田野 美佐 中島 義雄 上地 玲子
松田 欣也 梶谷 俊介

4 協議事項に係る出席者の発言

【知事】

本日のテーマは、「平成 29 年度における取組の方向性について」である。現在、県政の最上位計画である「晴れの国おかやま生き生きプラン」の新プランの策定作業を進めており、今年度中に策定することを目指している。先般、その骨子を公表したところであり、引き続き「教育県岡山の復活」を重点戦略に位置付け、現プランの「学力向上プログラム」、「徳育推進プログラム」に加え、前回の総合教育会議でも議論した、豊かな語学力やチャレンジ精神を有し、様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成を図る「グローバル人材育成プログラム」を新たに掲げることとしている。

これまで、「頑張る学校応援事業」や「学校警察連絡室」の設置などの新たな取り組みにもチャレンジし、一定の成果が現れ始めていると感じている。

来年度は、新プランの初年度でもあり、これまでの成果や課題を分析し、エビデンスに基づく施策にしっかりと取り組むことで、いいスタートを切りたいと考えており、限られた時間であるが、忌憚のないご意見をお願いしたい。

それでは、これまでの成果と課題を取りまとめたお手元の資料も参考にして、現在の取り組みの成果や課題がどのようなところにあるのかなど、ご意見をお聞かせいただきたい。

【教育委員】

家庭での基本的な生活習慣ができていないまま小学校に上がるため、子どもたちに落ち着きがないという状況が今もかなりある。家庭での生活習慣や自主勉強が一番重要ではないかと思うので、学校、家庭、地域が連携して、一つずつ課題を解決していくことが大事である。また、県の施策を、もっとそれぞれの先生方に伝えられるような、パンフレットなどの媒体があればいいのではないか。

【教育委員】

「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が伸びていないこと」に対しての具体的な対策がもう少し必要ではないか。OECDのデータでは、日本の子どもは将来に対してあまりいいイメージを持っていない子どもが多く、その中でさらに岡山は良くない。将来や未来に夢を持てるようなことが難しいと感じているのではないか。

今回インターハイで、生徒たちが非常によく頑張っていて、自主的に努力していい成果を出した。そのような達成感が感じられる教育を、もう少し増やしていただけたらいいと思う。将来に向けて頑張るといふ気持ちを植え付けられれば、勉強も頑張るのではないか。そういうところに、もう少し具体的な施策を打つといいのではないか。

グローバル人材の育成は、非常にいいことだと思う。語学や文化・多様性の理解、コミュニケーション能力は重要であるが、日本の社会で求められることは、世界でも求められると思うので、そういうことをきちんと伸ばしていくことも重要である。

【教育委員】

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の少なさが気になる。中学校に入ると、将来の目標がより具体化されるので、夢がしっかりとないと、なかなか勉強にやる気がわかないのではないか。

インターハイが岡山であったことが、県内の子どもたちにすごく大きな影響があったと思う。こういった機会を捉えて、将来の目標づくりにつながればいいと思う。

グローバル化についても、自分とは違うところで暮らしている人と仲良くする、知らない人と話をして仲良くなっていくというプロセスも大事だと思う。そのためにも、国外もそうだが、国内のいろんな人とコミュニケーションをとれるということが、まずは必要ではないか。

暴力行為の件数について、警察の方に入っただくことで、すごく効果があったようなので、ぜひ続けていけたらいいのではないか。

【教育委員】

小学校や中学校の先生、学校現場の意識は、年を追って変革できていると思う。温度差は多少あるが、取組は、まだまだ続けていかないといけない。

家庭での教育、勉強する時間を捉えていくと、いくら学校で頑張っても、家に帰るとほとんど勉強しないということになると、十分とは言えない。

先日ある校長先生が、PTA総会に親御さんたちがほとんど出てこられないという実情を訴えかけてこられた。教育委員会だけでは解決できない問題であるが、例えば、地域や企業なども教育に対してサポートできる体制を構築し、学校でのPTA行事に、進んで参画できるような仕組みを一緒になってつくっていくことも必要ではないか。

家庭環境が変わっているにも関わらず、家庭教育をサポートできる人や施設、仕組みは、まだ時代の変化に追いついていないのではないか。

【教育委員】

成果として、先生が企業と交流を始めたことがある。将来の夢を学校の中で語る時に、先生が社会を知っていることは、非常にプラスになる。企業側も、学校の先生に来ていただくと、学校の課題等、考えなければいけないことが見えてくる。それが、学力向上プログラムの家庭学習や徳育等にも関係するのではないか。

海外からの旅行客や岡山在住の外国人、海外経験をして岡山に戻っている方もたくさんいる。そのような方と、話をする機会の中で、グローバルの異文化を理解し、自分はこういうことをやりたいということが出てくるのではないか。

子どもが学力などを伸ばすのは本人がその気になった時であり、どうすればその気になるか。スポーツは常に競争して結果が出て、仲間と喜びを感じられるが、勉強はなかなかその達成感が感じられない。勉強もスポーツと同じように、何か将来の夢につながるような仕掛けを考えていく必要があると思う。

勉強で頑張った人の成果が意外と社会で見えてこない。そういったものも必要になる時代ではないだろうか。

【教育長】

スポーツは基礎基本を徹底的にたたき込み、あとは他流試合をいろんなところとやっていく。その中で、初めて力が伸びてくるので、基礎基本がないところにいくらやっても技の伸長はない。これは勉強と一緒である。スポーツは分かりやすいが、勉強にも同じことが言えるということを、子どもにもっとしっかり伝えていかないといけない。

教員の意識の問題については、学校の中は限られた世界なので、世間とのつながりが非常に見えにくくなる。その中で、自分のやっていることが、唯一正しいと思いがちである。企業と交流をさせていただく中で、社会の動き、社会の考え方が理解できてくる。そうなると、子どもに対する指導も、社会全体の視点から捉まえていくのだろうと。小中学校でも、夏休みなどに少し時間を取って、企業と交流していく場をつくっていく必要があると思う。

学力については、家庭学習時間は、中学校を見ると、大体ずっと全国平均と比べて10ポイントほど差を付けられている。この改善がないのが、中学校の学力が厳しい一つの要因ではないかと思う。生活習慣、家庭での学習習慣をどうしていくのかということが問題である。

学習意欲を高めることについては、キャリア教育をもう少し腰を据えてやって、自分はなぜ勉強するのか、どんな仕事に就くためにはどんな資格が要るのかを、発達段階に応じて考えていく場が必要ではないかと思う。

【知事】

4年前よりは少し良くなっている、そういう気運が高まっているというご意見を頂き、大変心強く思う。

家庭での教育や学習、習慣が大事で、学校だけではできないことや、将来の夢があるかどうか、モチベーション、やる気がないのに「やれ、やれ」と言われてもなかなかできないというお話しには、私も強く同意をする。

スポーツと勉強は、やることは違うけど随分似ているところがあるという視点は非常に面白い。スポーツを通じて「勉強も一緒だ」という説明の仕方は、今でもいい先生や賢い親はやっていると思うが、もっと我々も活用できそうであると感じる。

達成感や意義という意味でも、スポーツは参考になる。自分のことだけやっている、途中で疲れたり迷ったりするが、みんなのため、仲間のためにといいと、モチベーションが続きやすい。グループで何かを達成していくという、スポーツで当たり前のようにやっていることを、勉強で何かできないかと思う。

【教育委員】

グループ教育については、私も見ていてすごくいいと思う。

高校の先生は進路や将来のことなど、すごく子どものことを考えてくれている。地域の高校と中学校の連携ももっと密にやればいい。

キャリア教育についても、小学校である程度いろいろなものを見せた上で、中学校で自分のなりたい目標を持ち、どこを受験しようという感じで、何でも小さい時からいろいろなものに触れさせることが大事なのではないか。

【教育委員】

職業教育や専門教育を、もう少し充実してほしいと思う。

大学生の採用面接をするときに、大学は取りあえず4年間行き、アルバイトをやっていたという話が結構多い。わざわざ大学4年間でやるよりは、高校時代にきちんと勉強してもらって社会に出たほうが、本当はいいのではないかという気がする。

岡山は特にそういう教育は昔からしっかりやってきたので、これからも力を入れていけば、非常にいい学校になるのではないか。

【教育委員】

キャリア教育では、こういう仕事をしたいならこの資格が必要という具体的なものがいいのではないか。資格を取ろうと思えば、目標が見えやすくなる。そのために、勉強が必要というのを、繰り返し自分で確認できる機会が必要ではないか。

小学校で将来の目標を書くが、それを毎年やればいいが、そのままほったらかしになってしまっている。中学校に入って、具体的に「あなたの目標のためにはこういうプランが必要です」ということを話し合う機会があれば、より具体化していくのかなと思う。

グループ学習では、できる子ができない子に分かるように説明する。教えてもらった子にとっても、教えてもらったという体験がすごくいいのではないか。

【知事】

人に教えるというのはすごくいい勉強になる。

【教育委員】

現状認識をそれぞれの立ち位置でやっていくことが必要である。市町村の教育委員会も、その担当エリアの現状に対して、何が問題で、自分たちはどのように解決していこうと考えているのか。子どもたちは、そのような現状認識がどこまでできているか。また、教える教職員は、教える教育のレベルや質をどこまで認識できているか。一回でも多く、それぞれが現状認識できる機会を増やすことが必要である。

先生が子どもの教育レベルを把握するための物差し化にももっと取り組んでいかないといけないのではないかな。

【教育委員】

一人ひとり、何が得意で何が苦手なのかをきちんと認識し、社会のどこで貢献していくのかが見えてくると、いろいろな人が落ちこぼれにならないで済むと思う。駄目なところといいところをきちんとセットでフィードバックできるようになり、その中でどう生きるかを考える機会が、少し自分のことが分かるようになった年代で必要になってくるのではないかな。

学校教育と生涯教育をどうつなげていくかも、これから大きな課題になる。生涯学習や社会教育団体が非常に疲弊している。以前は学校とつながり、連携しながらやっていた。ボーイスカウトやガールスカウトも、かなり会員が減っている。もう少し社会で活躍しているところにスポットを当て、学校でも評価をするなどの方法もあるのではないかな。学校から、そういう社会での社会教育に、どう結び付けていくかについても、これから重要になってくるのではないかな。その中に、グローバル化も必要になってくる気がする。

【教育長】

全国の学力調査や県の独自調査をやっているが、こういうデータをもっとしっかり活用して、義務教育の段階で絶対落ちこぼれはつくらないようにしなければならない。担任している者は、一年間で子どもたちをここまで持っていくということを、より明確にして教育に当たるという意識をしっかりと持ってもらえるように説明をしていきたい。

やはり教育は人なりであり、教員の意欲やモチベーション、やりがいの基本になるので、学校の先生が元気を出して子どもたちに向かっていけるような環境整備も教育委員会としては取り組んでいかなければいけないのかなと思う。これについては、ずっとやっていかないといけない。

【知事】

教育は、社会に貢献しつつ、充実した人生を送るための準備であるので、どういう仕事をするのか、どの得意分野を伸ばしてやっていくのかということなしに教育は考えられない。早いうちからキャリアを意識させることは大事だと思う。世の中の仕事には、頭の良さや学力が大事なものも多々ある。だからこそ、学力と言っているが、学力がオールマイティカードに使えるかといえば、そうではない。ある程度をクリアすれば、それよりも正直さやまじめさの方がすごく大事な仕事もたくさんある。

学力がないということで、「何をやったってどうせ駄目だ」と思われると、その人や社会にとって大損失である。

本日は、「平成 29 年度における取組の方向性について」、意義深い意見交換ができ、感謝申し上げます。議論を踏まえて、来年度施策の検討をさせていただきたい。

次回の会議については、事務局から願います。

【事務局】

次回については、また連絡させていただきたい。

【知事】

以上をもって、第2回岡山県総合教育会議を終了する。
ありがとうございました。